



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ニシキキンカメムシ

学名:*Poecilocoria splendidulus*

日本で一番美しい（と私は信じています）カメムシです。カメムシですから、刺激すると当然あの香りを出します。ただ、他のカメムシに比べると若干においては弱いようです。

「錦」の名の通り、成虫は赤、青、緑に輝き、幼虫も青緑色に輝き、赤い筋が入ります。しかし、標本にすると色はくすみ、輝きもなくなります。ただ、幼虫

の脱皮殻は色がよく残ります。いろいろ試した結果、成虫はエタノールに漬けて保存すると色がよく残るようです。

このような派手な色をしていると、めだつて鳥などに狙われそうなものですが、実際に野外で探そうとしても、葉の上にいる成虫は意外にめだちません。保護色として役だっているのかもしれません。また、もし見つかっても赤い色で、食べてもまずいよと警告色になっているのでしょう。

広島県では帝釈峡周辺でしか生息が確認されていません。全国では東京都から鹿児島県までのいくつかの県で確認されていますが、産地は局地的で、ツゲの自生地に限られます。終齢（5齢）幼虫は4月下旬から5月上旬に羽化し、交尾産卵します。6月には孵化して7月下旬には、幼虫は、ホストのツゲから分散して、終令で越冬するようですが、越冬場所は不明です。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

